## 秩父地域の水道の特徴

埼玉県でいちばん高い場所にある三峰浄水場

秩父地域の水道は、山あいの地形のえいきょうで、谷ごとに小さな浄水場がたくさんあることから管理しなくてはならない施設がたくさんあります。また、町中をはなれると家が点在するため長い水道管が必要になります。秩父地域には1,100キロメートル以上の水道管がうめられていて、これは本州の長さ（青森県から山口県まで）より少し短い長さです。

このようなことから、施設を管理するためにはたくさんの手間とお金がかかります。

## 当たり前の水道だけれど

私たちは、家にいるときさまざまな場面で水を使っています。お風呂やせんたく、トイレ、そうじなど…。家で1日に使う水の量は1人約230Lと言われています。また、学校や会社などで使う水を含めた場合、1人約300Lにもなります。

今後、水道管などが古くなっても、水道の経営がわるいと水道管の工事が思うように進まなくなり、断水がおきてしまいます。飲み水も蛇口から出なくなり、当たり前の水道では無くなる可能性があります。

## これからどうなる秩父の水道

水道は長い時間と、たくさんの資金により今の状態にあると言えます。また、それを未来の人たちにバトンタッチしていく必要があります。水道局では、浄水場などを共同で利用したり、ダウンサイジング（大きさの見直し）をおこない無駄の無い水道施設にかえていっています。また、地震に強い水道管へ作りかえています。これからも、いろいろな方法で水道を長く使える方法を考えていきます。

## 最後に

私たちの生活のなかで「当たり前」となっている水道ですが、秩父地域においては、現在の水道を築くまでに100年間の歴史、歳月、人々の願い、努力があったことを忘れてはいけません。

蛇口をひねれば当たり前に出る水道について、過去を振り返ることにより改めて「当たり前」の大切さを考えてみてはいかがでしょうか。


**秩父広域市町村圏組合水道局**

〒368-0054　秩父市別所 538 番地

TEL0494-25-5221　FAX0494-23-6111

E-mail　keieikikaku@union.chichibukouiki.lg.jp


# ちちぶ水道100周年

浦山川の清流　作：髙澤洋次氏

昭和39 年頃の橋立浄水場

現在の橋立浄水場（令和 6 年 4 月）

## ～歴史ある秩父の水道を未来へ～

**秩父広域市町村圏組合水道局**

ANNIVERSARY CHICHIBU WATERWORKS 100 ちちぶ水道100周年

# ちちぶ地域の水道100年史

©皆野町2011

大正時代の計画などの書類

橋立浄水場の工事の様子
（S30～40年代）

別所浄水場ができた（S58年）

橋立の水管橋ができた（H29年）

| | | |
|---|---|---|
| 1923 | 大正12 | 関東大震災がおきる |
| 1924 | 大正13 | **秩父町橋立浄水場給水が始まる** |
| 1939 | 昭和14 | 第二次世界大戦が始まる |
| 1945 | 昭和20 | 第二次世界大戦が終わる |
| 1946 | 昭和21 | 日本国憲法施行される |
| 1950 | 昭和25 | 秩父町が秩父市になる |
| 1953 | 昭和28 | テレビ放送始まる |
| 1956 | 昭和31 | **横瀬町関の入簡易水道給水が始まる** |
| 1958 | 昭和33 | 東京タワーができる　**吉田町中郷簡易水道ができる** |
| 1960 | 昭和35 | カラーテレビ放送が始まる　**横瀬町生川簡易水道ができる** |
| 1962 | 昭和37 | **皆野長瀞水道企業団ができる** |
| 1963 | 昭和38 | **秩父市橋立浄水場の再整備ができる** |
| 1964 | 昭和39 | 東京オリンピック |
| 1966 | 昭和41 | **小鹿野町上水道事業が始まる　皆野長瀞水道企業団給水が始まる** |
| 1967 | 昭和42 | 日本の人口1億人こえる |
| 1968 | 昭和43 | **横瀬町山口浄水場ができる** |
| 1969 | 昭和44 | 東名高速道路ができる |
| 1970 | 昭和45 | **秩父広域市町村圏組合ができる　秩父市橋立浄水場の再整備ができる**<br>**横瀬町芦ヶ久保第1期拡張事業ができる　小鹿野町伊豆沢地区の編入** |
| 1972 | 昭和47 | **小鹿野町小鹿野浄水場の再整備ができる** |
| 1973 | 昭和48 | 第1次オイルショック　**皆野長瀞水道企業団第1次拡張事業ができる** |
| 1974 | 昭和49 | **吉田町上水道事業が始まる** |
| 1976 | 昭和51 | **小鹿野町小判沢地区の編入** |
| 1977 | 昭和52 | **荒川村谷津川簡易水道ができる** |
| 1978 | 昭和53 | **皆野浄水場の再整備ができる　小鹿野町伊豆沢上地区の編入** |
| 1980 | 昭和55 | **横瀬町姿見山浄水場ができる** |
| 1981 | 昭和56 | **大滝三峰簡易水道ができる** |
| 1982 | 昭和57 | 東北新幹線、上越新幹線が開通 |
| 1983 | 昭和58 | **秩父市別所浄水場ができる** |
| 1984 | 昭和59 | **小鹿野町小鹿野浄水場の再整備ができる** |
| 1988 | 昭和63 | 瀬戸大橋ができる |
| 1993 | 平成5 | **秩父市別所浄水場の再整備ができる** |
| 1995 | 平成7 | 阪神淡路大震災がおきる |
| 2003 | 平成15 | **皆野長瀞国神、樋口簡水を統合する** |
| 2005 | 平成17 | 秩父市、吉田町、大滝村、荒川村が合併　小鹿野町と両神村が合併<br>**横瀬町芦ヶ久保第2期拡張事業ができる** |
| 2008 | 平成20 | **皆野長瀞上下水道組合が運営される** |
| 2011 | 平成23 | 東日本大震災がおきる<br>**秩父地域で水道事業運営の見直しが始まる　秩父市別所第4配水池ができる** |
| 2012 | 平成24 | 東京スカイツリーができる |
| 2016 | 平成28 | **秩父広域市町村圏組合水道事業が始まる**<br>熊本地震がおきる　**横瀬町初花簡易水道が統合される** |
| 2019 | 令和1 | 令和元年東日本台風により圏域内で被災 |
| 2020 | 令和2 | 新型コロナウイルス感染症がはやる |
| 2021 | 令和3 | **水道料金を統一する** |
| 2024 | 令和6 | 能登半島地震災害がおきる<br>**橋立浄水場ができてから100周年** |

©秩父市

©小鹿野町

©長瀞町

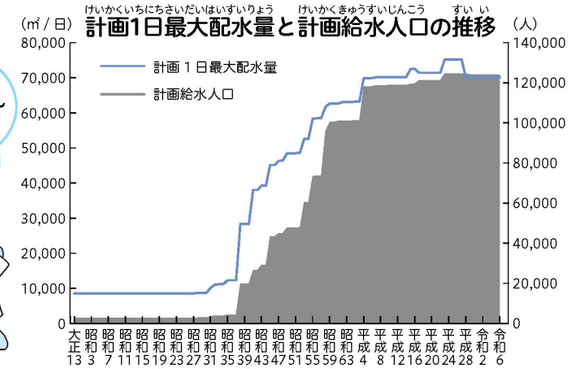
©横瀬町

## ちちぶの水道は創設100周年をむかえました

秩父地域の水道事業は、秩父町時代の大正13年11月1日に埼玉県内で最初の近代水道として橋立浄水場から給水を開始し令和6年で100周年をむかえます。

当時の給水戸数は527戸、給水人口は2,477人と記録されています。

ちちぶの水道事業の始まりは、明治時代に町中で約450戸が燃える大火があったことから計画されたといわれており、衛生的な飲み水としての水道はもちろんのこと、災害を防ぐ水道のやくわりもありました。




## 事業の拡張期（昭和30年代～昭和50年代）

秩父地域の水道は、戦後の人口増加と、衛生的な水道の普及、水洗トイレの普及などにより拡大をつづけてきました。

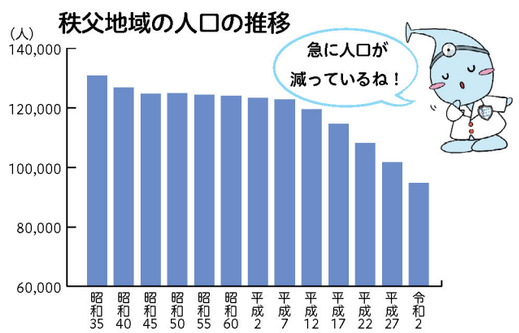
**秩父市**は、昭和25年4月に秩父町から秩父市となり、昭和30年代には町村合併によりさらに人口が増加し、給水する地区が広がりました。その後も、水の使用量の増加にあわせて、昭和40年代には橋立浄水場を再び整備し、昭和58年には配水の中心となる別所浄水場が作られました。

**横瀬町**は、昭和31年７月に給水をはじめ、人口の増加とともに給水する地区を広げ、昭和55年には横瀬町で一番大きな姿見山浄水場を作りました。

**皆野町**、**長瀞町**は、配水の中心となる皆野浄水場が昭和37年に作られ、皆野長瀞水道企業団として昭和41年12月、町の中心部分で給水を始めました。その後、給水する地区を広げながら、平成20年に皆野・長瀞上下水道組合となりました。

**小鹿野町**は、昭和41年2月の小鹿野浄水場が作られ、その後、給水する地区を広げながら、平成17年に両神村と合併しました。

## 水道の事業統合と広域化（平成28年～）

水道は使う人が払う水道料金によって運営されていますが、秩父地域の人口は平成２年あたりから、急に減少しています。人口減少とともに水道料金収入も減少しており、大変きびしい経営状況になっていました。

そこで、経営の立て直しのため、大正13年以来、市町、組合ごとに運営されてきた事業を統合し、秩父広域市町村圏組合水道事業として平成28年4月新たなスタートを切りました。